

「はげ」というビデオを見て



桜ヶ丘小4年 長谷川 諒子

わたしは、「はげ」と、いうビデオを見て、病気ではげになつてなやんでいる人や、くるしんでいる気持ちがあるように感じました。なやんでいる人は、「はげ、はげ」と、言われるのがいやな人、くるしんでいる人は、薬や手じゅつで、いたくてくるしんでいる人です。このビデオでは、「はげ」がげんいで、なやみくるしんでいます。わたしは、かわいそうと思います。何でそんな病気になつちやつたかな、とふしぎです。わたしは、ビデオを見て、えらいなと思つたところがあります。三年生の女の子が、「どうしたの？ いずみちゃん。」

んをいじめた男の子が、あやまつたことです。ちゃんとあやまれてえらい！と思ひました。世の中にも、病気でくるしんでいる人があるんだな、と思ひました。わたしはそうぞうしました。

わたしは、もしその女の子だったら、学校を休んでいたと思ひます。わたしは、はげとか人をきずつける言葉はきらいです。なぜかというとき、いづつよと思つたわけではないけど、いわれた人はきずついて石みたいになつてしまひます。その上、心がいたんで、あるけなくなつて、頭が真っ白に、なにもみないじようたになつてしまひます。わたしは、その、いずみちゃん心が強い女の子にみえました。すごくえらいと思ひます。わたしは、「はげ」と、わる口を言われたことがあります。言つたこともありません。でも、言われた人の気持ちが、伝わつてきました。

「ばか、死ぬ。うざい。おまえなんか生きるかぢがな。」というひどい言葉を聞くことがあります。そういう時、お母さんの言葉を思ひ出します。「生きるかぢのない子はいないんだよ。生まれるまでたいへんなんだよ。十月月もおなかの中で、しっかりとろみついて、やっと生まれくるんだよ。」という言葉です。これから、このお母さんの言葉を大じにしていきたいと思ひます。

# 夢

## なかるべからず

### 最強の挑戦者であれ



よしやま 嘉山 だいすけ さん 大介

## 油断大敵

純なものほど極めることは難しい。「走って跳ぶ」その一瞬には、技術・体力、そして精神力が大きく作用する。7m69cm。昨年17年ぶりに走り幅跳びの県高校記録を更新した彼

もまた、試合前は震えるような緊張感に襲われる。深谷商業高校 陸上部キャプテン 嘉山大介。ハチマキに書かれた『油断大敵』の文字は、初心を忘れないため。彼は、いつでも挑戦者としての強い心を持ってフィールドに立つ。

## 譲葉の賦

⑤ きんぎょし

儀八が王長室で学ぶ態度は、実に立派なものであり、仁山の多くの門弟のうちでもこれほど勉学に励んだ者はいなかった。このため、儀八が十四歳になる頃にはほぼ歴史全般に通じるようになり、特に中国史については、王長室の塾生に講話を行えるまでに教養を深めていた。仁山は滅多に弟子を褒めない師匠であったが、儀八に対してだけは「怠けず励めば、将来は偉大な儒学者となるであろう。楽しみなものだ。」と人々に語る程であった。こんな風に十代の大半を王長室で過ごしていた儀八に、ちよつとした転機が訪れたのは、二十歳を過ぎた頃であった。「儀八、お前にちよつと頼みがあるんだが……」その日、勘助は唐突にそう切り出した。「なんだい兄さ」「実はな、安兵衛がお前に商いの面倒を見てもらいたいと言つてきたんだがどうだい。」その言葉を聞いた儀八の脳裏には、初めて斉藤家の土蔵を覗いたあの曝書の日の記憶が過ぎり、少しばかり胸が高鳴るのを感じた。安兵衛が四代目を継いだこの当

## 桃井可堂伝

時、中瀬村延命地の斉藤家の商いは大きなものになっていた。その上、当主安兵衛は俳人斉藤南々としてこの地域で広く名を知られ、伊勢崎生まれの南宋画家金井鳥洲とも親交があり、常にその往来は絶えることが無かつた。安兵衛は利潤を追求する商いの道よりは、風雅の道に堪能であつた。このため、大きくなつた斉藤家の商いを維持するためには、相当な手腕と力量のある者を支配人格として雇うことが必要となり、安兵衛は儀八の能力を求めたのである。斉藤家に勤め始めた儀八は、その実直で勞を厭わない仕事振り、と、条理整然とした采配を振るうことで評判となり、斉藤家の商いもまた、より大きなものとなつていった。こうした中でも儀八は、朝夕の寸刻を割いて読書に充て、ついには斉藤家の蔵書を全て読破していった。斉藤家へ勤めることにより、金井鳥洲を始めとした多くの文化人と交流を持ち、江戸の風をより敏感に感じるようになった儀八が人生の転機とも言える決断をするのは、この時より三年の後である。

## ライバル

1 番センター嘉山。小学生の時、イチロー選手に憧れる野球少年だった。陸上に目覚めたのは5年生の時、市の陸上記録会に出場したことがきっかけだ。勝ちも負けもすべてが自分に帰ってくる。個人競技に魅力を感じた。



今年の埼玉総体には3種目で出場。4×100mリレーはこのメンバーで優勝を狙う。

中学では、迷うことなく陸上部へ入部。練習漬けの毎日をすごした。キツイ練習の中でも1度もやめようと考へたことはない。自ら選んだ道。楽しさの中のキツさだった。中学3年で全国ランキング1位になると、あこがれの先輩を追つて陸上の名門『深谷商業高校』へ進学。昨年は日本代表として世界ユースに出場し、銀メダルを獲得した。多くのメディアに取り上げられるようになって嘉山におごりは

## あこがれ

ない。全国にいる3人のライバルが、彼を挑戦者たらしめる。「いつも1本目は緊張するんです。」期待されることの重圧よりも、ライバルたちの記録が彼に不安を与える。しかし、不安は練習量へと分解され、自信へと変化をとげる。

校庭には、部員達に気楽に声をかける嘉山の姿がある。誰よりも練習を楽しむ事、そして、自らには厳しい目標を課し、走り込みを続ける姿で部員達を惹きつける。「今は助走とスピードが課題、まだまだ記録は伸びます。」自信に満ちた嘉山の目は、遠く4年後のロンドンを見据えていた。

夢七訓 夢なき者は理想なし 理想なき者は信念なし 信念なき者は計画なし 計画なき者は実行なし 実行なき者は成果なし 成果なき者は幸福なし ゆえに 幸福を求める者は 夢なかるべからず ※

(本文中の敬称は本人の承諾を得て省略しています)

※曝書=書物を虫干しすること。